

# 寺坂 昌三

Terasaka Masami



作品は読むのではなく  
見てほしいと寺坂さん



寺坂昌三さん(久世)

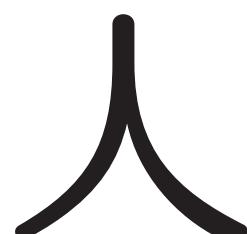
書家。日展準会員、日本書芸院常務理事、  
京都橘大学文学部教授などさまざまな役職を務める。  
受賞歴も日展特選2回など多数。  
書道教室を市内外で開催している。

まにわびと  
13  
2020

作る芸術の世界へと足を踏み入れるようになり  
ました。「ある日、手本は書かないから自分で書  
いてこいと、師匠に言われました。自分で書を  
つくるのはしんどい。でも、自分で工夫してつ  
くり上げていく、試行錯誤していく過程がない  
とその先には行けません」。  
教職を退き、書の道を  
さらに進み続ける寺  
坂さん。その作品  
は、歴史と知性、  
そして静かな情  
熱を内に秘めて  
います。



MANIWABITO



歴史ある美術展「日展」で2度の特選を受賞  
した寺坂昌三さんが、書道を本格的に始めたの  
は大学1年生の頃だったそうです。といつても  
書道部に所属していたという訳ではありません。  
寺坂さんは体操部でした。「教育学部に通っ  
ていましたので、必須科目で書道があるんです  
ね。その教授が、興味があるなら指導すると言  
つていましたので、面白そだなと教授の部屋  
を訪ねました。もともと小学校の頃から書写の  
時間は好きだったんです」と、書道を始めるき  
づかけを寺坂さんは話します。そのときの教授  
が、寺坂さんの師匠となる石井梅僊さんです。

## いつしかライフケークに

大学卒業後、小学校教諭として仕事を始めて  
からも、寺坂さんは早朝や休日を使って書道に  
没頭しました。そして、いつしか自分で作品を

戦するようになりました。「初めは10級なんて樂  
勝だろうと、すぐ提出したんです。でもダメで。  
これはなめてちやいかんなと思いつきました。  
時には守衛さんにそろそろ帰ろうよと言われる  
まで書いていました」と、当時を振り返ります。

## 趣味で始めた書道

寺坂さんは体操部の練習を終えてから、教授

にもらったお手本を手に、1人で校内の書道室  
で趣味として書道を始めたのです。そして、書

道研究誌「正筆」を購読し、段級位の取得に挑

戦するようになりました。「初めは10級なんて樂

勝だろうと、すぐ提出したんです。でもダメで。

これはなめてちやいかんなと思いつきました。

時には守衛さんにそろそろ帰ろうよと言われる

まで書いていました」と、当時を振り返ります。